

公立大学法人福岡女子大学 個別施設計画について

【施設の概要】

対象施設	公立大学法人福岡女子大学		
所管	人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課		
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		
敷地面積 (m ²)	60,491.70	建築面積 (m ²)	20,308.23
主構造	RC、S	延床面積 (m ²)	44,441.05
主要建築物	本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、サークル棟、寄宿舍 (旧)、寄宿舍 (新)		

公立大学法人福岡女子大学は、女子の高等教育を使命として、大正12年に日本で初めて設置された公立の女子専門学校を前身とし、以来90余年にわたって、社会の各方面で活躍する優秀な卒業生を送り出してきました。

2006年(平成18年)の公立大学法人化以降、キャリア教育を中心に据えた教育改革に取り組み、既存の学部・学科を大幅に再編して国際文理学部を開設、初年次全寮制、英語教育の徹底、国際交流プログラムの充実などを図り、国際的な感性を持ち、主体的に行動することができる人材の育成を行っています。

【個別施設計画の策定単位】

公立大学法人福岡女子大学の個別施設計画については、当該施設を構成する建築物を①本部棟、②講義棟、③研究棟・図書館、④体育館・地域連携センター、⑤大学会館、⑥サークル棟、⑦寄宿舍(旧)、⑧寄宿舍(新)の8つに分け、それぞれについて今後の改修等に関する計画を策定しました。

公立大学法人福岡女子大学
(本部棟)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	26
施設所管課	私学振興・青少年 育成局政策課

令和3年2月

❀福岡県❀

公立大学法人福岡女子大学（本部棟）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対象施設	公立大学法人福岡女子大学		
所管	人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課		
整理番号	26	竣工年度	昭和55年度
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		
敷地面積(㎡)	60,491.70	建築面積(㎡)	20,308.23
主構造	RC、S	延床面積(㎡)	44,441.05
主要建築物	本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、学生会館、サークル棟、寄宿舎(旧)、寄宿舎(新)		

(2) 対象施設の活用状況

建物の名称	本部棟				
棟番・枝番	210	—	1	竣工年度	平成28年度
建築面積(㎡)	1,512.58		延床面積(㎡)	2,435.68	
構造・階数	RC造 地上3階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
3F	83.00	倉庫			
2F	1,129.89	大会議室、理事長室、非常勤講師室			
1F	1,222.79	エントランスホール、執務室、休憩室、サーバー室			

公立大学法人福岡女子大学は、日本で最初の公立女子専門学校である福岡県立女子専門学校を起源とし、福岡県が設置していたものを平成18年4月に公立大学法人に移行しました。国際文理学部が設置されており、より良い社会づくりに貢献することのできる女性の育成を掲げています。

なお、公立大学法人福岡女子大学の本部棟は、平成28年度末に竣工し、執務室、大会議室などとして利用されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築3年で新築の建物であるため、計画期間中の更新は計画していません。

(2) 施設内での優先順位

新築であるため、この計画期間内において改修を行う予定はありません。

(3) その他

敷地内には、本部棟のほか、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、学生会館、サークル棟、寄宿舍（旧）、寄宿舍（新）があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

良好な状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	公立大学法人福岡女子大学		建物名称	本部棟			
所在地	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		棟番・枝番	210	-	1	
建築年度	平成28年度	建築面積	1,512.58㎡		築年数	1年	
構造・階数	RC	3	延面積	2,435.68㎡		現存率	100.0
	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	RC	1	100.0	40.00	
	小計					40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水押さえ コンクリート	1	100.0	20.00	
	外壁	20	タイル・塗装仕上げ	1	100.0	20.00	
	小計					40.00	
電気設備	受変電設備	10		1	100.0	10.00	
	小計					10.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		1	100.0	10.00	
	小計					10.00	
合計						100.00	

この結果、公立大学法人福岡女子大学の本部棟の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ¹	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水押さえコンクリート	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	タイル 塗装仕上げ	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	石こうボード EP 有孔合板 塗装仕上げ	100.0	劣化	特に問題なし
天井	岩綿吸音板 モルタル塗り	100.0		
床	ビニール床タイル張り 塩ビシート OAフロア モルタル塗り タイルカーペット	100.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし

¹ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	エレベーター設 備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2017	3	新	—	—	—	—	65 年

築 3 年と新しく、建物の状態も良好であるため、公立大学法人福岡女子大学の本部棟の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 62 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築3年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は62年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

(2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う予定はありません。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、施設の状況等により、計画の見直しを行います。

(単位：百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

公立大学法人福岡女子大学
(講義棟)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	26
施設所管課	私学振興・青少年 育成局政策課

令和3年2月

❀福岡県❀

公立大学法人福岡女子大学（講義棟）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対象施設	公立大学法人福岡女子大学		
所管	人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課		
整理番号	26	竣工年度	昭和55年度
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		
敷地面積(㎡)	60,491.70	建築面積(㎡)	20,308.23
主構造	RC、S	延床面積(㎡)	44,441.05
主要建築物	本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、サークル棟、寄宿舍(旧)、寄宿舍(新)		

(2) 対象施設の活用状況

建物の名称	講義棟				
棟番・枝番	210	—	2	竣工年度	平成27年度
建築面積(㎡)	1,924.40		延床面積(㎡)	4,020.10	
構造・階数	RC造 地上3階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
3F	724.90	講義室、映写室、電気室、機械室			
2F	1,565.12	講義室、中ホール、電気室、機械室			
1F	1,730.08	エントランスホール、小ホール、講義室、情報処理演習室、電気室、機械室			

公立大学法人福岡女子大学は、日本で最初の公立女子専門学校である福岡県立女子専門学校を起源とし、福岡県が設置していたものを平成18年4月に公立大学法人に移行しました。国際文理学部が設置されており、より良い社会づくりに貢献することのできる女性の育成を掲げています。

なお、公立大学法人福岡女子大学の講義棟は平成27年度に竣工し、講義室や情報処理演習室などとして利用されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築4年と新しいため、計画期間中の更新は計画していません。

(2) 施設内での優先順位

築4年と新しく、この計画期間内において改修を行う予定はありません。

(3) その他

敷地内には講義棟のほか、本部棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、学生会館、サークル棟、寄宿舍（旧）、寄宿舍（新）があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

全体的に大きな問題はなく、良好な状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	公立大学法人福岡女子大学		建物名称	講義棟			
所在地	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		棟番・枝番	210	-	2	
建築年度	平成27年度	建築面積	1,924.40㎡		築年数	2年	
構造・階数	RC	3	延面積	4,020.10㎡		現存率	100.0
	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	RC	2	100.0	40.00	
	小計					40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水押さえコンクリート	2	100.0	20.00	
	外壁	20	タイル・塗装仕上げ	2	100.0	20.00	
		小計				40.00	
電気設備	受変電設備	10		2	100.0	10.00	
	小計					10.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		2	100.0	10.00	
	小計					10.00	
合計						100.00	

この結果、公立大学法人福岡女子大学の講義棟の現存率は、「100.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ²	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	タイル コンクリート	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	石こうボード EP	100.0	劣化	特に問題なし
天井	石こうボード EP	100.0		
床	ビニールシート張り	100.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
受変電設備	あり	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
自家発電設備	自家発電設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満

² Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	100.0	経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年未満
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満
エレベーター 設備	エレベーター設 備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2016	4	新	—	—	—	—	65 年

築 4 年と新しく、建物の状態も良好であるため、公立大学法人福岡女子大学の講義棟の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 61 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築4年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は61年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

(2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う予定はありません。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、施設の状況等により、計画の見直しを行います。

(単位：百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

公立大学法人福岡女子大学
(研究棟・図書館)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	26
施設所管課	私学振興・青少年 育成局政策課

令和3年2月

❀福岡県❀

公立大学法人福岡女子大学（研究棟・図書館）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対象施設	公立大学法人福岡女子大学		
所管	人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課		
整理番号	26	竣工年度	昭和55年度
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		
敷地面積 (㎡)	60,491.70	建築面積 (㎡)	20,308.23
主構造	RC、S	延床面積 (㎡)	44,441.05
主要建築物	本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、サークル棟、寄宿舍 (旧)、寄宿舍 (新)		

(2) 対象施設の活用状況

建物の名称	研究棟・図書館			
棟番・枝番	210	—	3	竣工年度 平成25年度
建築面積 (㎡)	5,450.71		延床面積 (㎡)	20,950.14
構造・階数	RC造 地上7階 地下1階 塔屋1階			
各階面積及び用途				
階別	階床面積 (㎡)	主な用途 (室名他)		
RF	25.95	ペントハウス		
7F	1,471.01	研究室、実験室		
6F	2,553.18	研究室、実験室		
5F	2,558.59	研究室、実験室		
4F	2,553.18	研究室、実験室、教員室、電気室、機械室		
3F	2,623.50	研究室、実験室、教員室、電気室、機械室		
2F	4,214.29	研究室、実験室、書架、電気室、機械室、サーバー室		
1F	4,763.51	ロビー、LL教室、実験室、書架、厨房、電気室、機械室		
B1	186.93	機械室		

公立大学法人福岡女子大学は、日本で最初の公立女子専門学校である福岡県立女子専門学校を起源とし、福岡県が設置していたものを平成18年4月に公立大学法人に移行しました。国際文理学部が設置されており、より良い社会づくりに貢献することのできる女性の育成を掲げています。

なお、公立大学法人福岡女子大学の研究棟・図書館は、平成25年度に竣工し、研究室、実験室、教員室、図書館として利用されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築6年と新しいため、計画期間中の更新は計画していません。

(2) 施設内での優先順位

築6年と新しく、この計画期間内において改修を行う予定はありません。

(3) その他

敷地内には研究棟・図書館のほか、本部棟、講義棟、体育館・地域連携センター、学生会館、サークル棟、寄宿舍（旧）、寄宿舍（新）があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

全体的に大きな問題はなく、良好な状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	公立大学法人福岡女子大学		建物名称	研究棟・図書館			
所在地	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		棟番・枝番	210	-	3	
建築年度	平成25年度	建築面積	5,450.71㎡		築年数	4年	
構造・階数	RC	7	延面積	20,950.14㎡		想定耐用年数	65年
				現存率	98.0		
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	RC	4	100.0	40.00	
	小計					40.00	
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水押さえ コンクリート	4	100.0	20.00	
	外壁	20	タイル・塗装仕上げ	4	100.0	20.00	
	小計					40.00	
電気設備	受変電設備	10		4	90.0	9.00	
	小計					9.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	90.0	9.00	
	小計					9.00	
合計						98.00	

この結果、公立大学法人福岡女子大学の研究棟・図書館の現存率は、「98.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ³	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水(B-2)	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	塗装 タイル	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
内壁	不明	100.0		
天井	吸音板	100.0	劣化	特に問題なし
床	ビニールシート 張り	100.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—

³ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	エレベーター設 備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2014	6	新	—	—	—	—	65 年

築 6 年と新しく、建物の状態も良好であるため、公立大学法人福岡女子大学の研究棟・図書館の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 59 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築6年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は59年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

(2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う予定はありません。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、施設の状況等により、計画の見直しを行います。

(単位：百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

公立大学法人福岡女子大学
(体育館・地域連携センター)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	26
施設所管課	私学振興・青少年 育成局政策課

令和3年2月

❀福岡県❀

公立大学法人福岡女子大学（体育館・地域連携センター）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対象施設	公立大学法人福岡女子大学		
所管	人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課		
整理番号	26	竣工年度	昭和55年度
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		
敷地面積(㎡)	60,491.70	建築面積(㎡)	20,308.23
主構造	RC、S	延床面積(㎡)	44,441.05
主要建築物	本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、サークル棟、寄宿舎(旧)、寄宿舎(新)		

(2) 対象施設の活用状況

建物の名称	体育館・地域連携センター				
棟番・枝番	210	—	4	竣工年度	平成25年度
建築面積(㎡)	1,957.44			延床面積(㎡)	2,384.54
構造・階数	S造 地上2階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
2F	1,752.62	ギャラリー、セミナー室、電気室			
1F	631.92	エントランスホール、アリーナ、事務室、倉庫、更衣室、シャワー室			

公立大学法人福岡女子大学は、日本で最初の公立女子専門学校である福岡県立女子専門学校を起源とし、福岡県が設置していたものを平成18年4月に公立大学法人に移行しました。国際文理学部が設置されており、より良い社会づくりに貢献することのできる女性の育成を掲げています。

なお、公立大学法人福岡女子大学の体育館・地域連携センターは、平成25年度に竣工し、アリーナやセミナー室などとして利用されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築6年と新しいため、計画期間中の更新は計画していません。

(2) 施設内での優先順位

築6年と新しく、この計画期間内において改修を行う予定はありません。

(3) その他

敷地内には体育館・地域連携センターのほか、本部棟、講義棟、研究棟・図書館、大学会館、サークル棟、寄宿舍（旧）、寄宿舍（新）があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

全体的に大きな問題はなく、良好な状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	公立大学法人福岡女子大学		建物名称	体育館・地域連携センター				
所在地	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		棟番・枝番	210	-	4	築年数	4年
建築年度	平成25年度	建築面積	1,957.44㎡		現存率	98.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	S 2	延面積	2,384.54㎡					
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	S	4	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部 仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水(B-2)	4	100.0		20.00	
	外壁	20	サイディング	4	100.0		20.00	
	小計							40.00
電気設備	受変電設備	10		4	90.0		9.00	
	小計							9.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		4	90.0		9.00	
	小計							9.00
合計							98.00	

この結果、公立大学法人福岡女子大学の体育館・地域連携センターの現存率は、「98.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	S	100.0	耐震診断による Is 値 ⁴	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水(B-2)	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	—
			防水層の劣化	—
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	サイディング	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	石こうボード EP 木	100.0	劣化	特に問題なし
天井	吸音板	100.0		
床	タイル貼り ビニールシート張り	100.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

⁴ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	エレベーター設 備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2014	6	新	—	—	—	—	65 年

築 6 年と新しく、建物の状態も良好であるため、公立大学法人福岡女子大学の体育館・地域連携センターの目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 59 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築6年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は59年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

(2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う予定はありません。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、施設の状況等により、計画の見直しを行います。

(単位：百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。

公立大学法人福岡女子大学
(大学会館)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	26
施設所管課	私学振興・青少年 育成局政策課

令和3年2月

❀福岡県❀

公立大学法人福岡女子大学（大学会館）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対象施設	公立大学法人福岡女子大学		
所管	人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課		
整理番号	26	竣工年度	昭和55年度
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		
敷地面積(㎡)	46,549.00	建築面積(㎡)	20,308.23
主構造	RC、S	延床面積(㎡)	44,441.05
主要建築物	本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、サークル棟、寄宿舎(旧)、寄宿舎(新)		

(2) 対象施設の活用状況

建物の名称	大学会館				
棟番・枝番	210	—	5	竣工年度	平成3年度
建築面積(㎡)	1,289.72		延床面積(㎡)	2,065.49	
構造・階数	RC造(一部S造) 地上2階 塔屋1階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
RF	39.72	ペントハウス			
2F	1,025.60	大ホール、控室、ロビー			
1F	1,000.17	ロビー、食堂、厨房、売店、倉庫、電気室、機械室			

公立大学法人福岡女子大学は、日本で最初の公立女子専門学校である福岡県立女子専門学校を起源とし、福岡県が設置していたものを平成18年4月に公立大学法人に移行しました。国際文理学部が設置されており、より良い社会づくりに貢献することのできる女性の育成を掲げています。

なお、公立大学法人福岡女子大学の大学会館は、平成3年度に竣工し、食堂や売店などとして利用されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築28年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造り(一部鉄骨造)による一般的な建物であり、平成23年度にはエレベーターの設置工事を行っています。

漏水痕が多く見られたことから、ホール天井の改修工事に合わせて、屋上に防水シートを張り応急的に漏水防止を図っていますが、防水関連の改修を優先的に行います。また、外壁や内壁、電気設備・空気調和設備等についても予防保全型管理のうえでの標準的な改修時期に合わせた計画的な改修を行っていきます。

(3) その他

敷地内には大学会館のほか、本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、サークル棟、寄宿舍(旧)、寄宿舍(新)があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

屋上部において、防水シートに破損、めくれが見られ、立上り部や構造基礎に部分的にひび割れが見られたことから、屋上を覆うように防水シートを張り、応急的に漏水防止を図っています。外壁においては、モルタルやタイルにひび割れが見られます。内部においては天井部に漏水痕が複数箇所で見られるなど、経年による老朽化が進行している状況です。

施設設備の不具合等が発見された場合、部分的に事後保全による修繕を行っているだけで、多くの部分が改修されていない状態です。

築20年以上が経過し、標準的な改修時期を迎える部位が順次出てくる時期となっています。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	公立大学法人福岡女子大学		建物名称	大学会館				
所在地	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		棟番・枝番	210	-	5	築年数	26年
建築年度	平成3年度	建築面積	1,289.72㎡		現存率	80.0	想定耐用年数	65年
構造・階数	RC	2	延面積	2,065.49㎡				
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率		①×②	
構造	躯体	40	RC	26	100.0		40.00	
	小計							40.00
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水押さえコンクリート	26	60.0		12.00	
	外壁	20	タイル・塗装仕上げ	26	80.0		16.00	
	小計							28.00
電気設備	受変電設備	10		26	60.0		6.00	
	小計							6.00
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		26	60.0		6.00	
	小計							6.00
合計							80.00	

この結果、公立大学法人福岡女子大学の大学会館の現存率は、「80.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C (一部S)	100.0	耐震診断による Is 値 ⁵	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	シート防水	60.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			防水層の劣化	・広範囲に少しずつ の劣化がある ・多数の部材に各々 少しずつ劣化部分 がある ・部分修繕でも対応 可能
			経年（新設もしくは改 修後）	経年 20 年以上
外壁	塗装 タイル	80.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			漏水の発生・痕跡の有 無	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
内壁	タイル貼り	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題無し
天井	吸音板	80.0		
床	タイル貼り ビニールシート 張り	80.0		
建具	アルミ	90.0		
電灯・電話設 備	—	—	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	仕上げ材等に劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題なし
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし

⁵ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
消火設備	消火設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
エレベーター 設備	エレベーター設 備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 10 年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1992	28	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無い場合、公立大学法人福岡女子大学の大学会館の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 37 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築28年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は37年となり、計画期間に施設の更新(建替え)を行う予定はありません。

計画期間の改修費用は、約1億5千万円となっています。

(2) 対策の平準化について

まずは、屋上防水の改修を優先して行います。その他の設備についても順次改修していきます。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により、計画の見直しを行います。

(単位：百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	49	0	49
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	30	0	30
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	6	64	0	70
その他	外構	0	0	0	0
	計	6	143	0	149

※実際の予算や事業費等とは異なります。

公立大学法人福岡女子大学
(サークル棟)
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	26
施設所管課	私学振興・青少年 育成局政策課

令和3年2月

❀福岡県❀

公立大学法人福岡女子大学（サークル棟）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対象施設	公立大学法人福岡女子大学		
所管	人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課		
整理番号	26	竣工年度	昭和55年度
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		
敷地面積(㎡)	46,549.00	建築面積(㎡)	20,308.23
主構造	RC、S	延床面積(㎡)	44,441.05
主要建築物	本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、サークル棟、寄宿舎(旧)、寄宿舎(新)		

(2) 対象施設の活用状況

建物の名称	サークル棟				
棟番・枝番	210	—	6	竣工年度	平成3年度
建築面積(㎡)	827.80		延床面積(㎡)	1,332.89	
構造・階数	RC(一部S)造 地上2階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
2F	541.21	部室			
1F	791.68	部室、和室、シャワー室			

公立大学法人福岡女子大学は、日本で最初の公立女子専門学校である福岡県立女子専門学校を起源とし、福岡県が設置していたものを平成18年4月に公立大学法人に移行しました。国際文理学部が設置されておりより良い社会づくりに貢献することのできる女性の育成を掲げています。

なお、公立大学法人福岡女子大学のサークル棟は、平成3年度に竣工し、学生の部活動用の部屋として利用されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築28年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していません。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート(一部鉄骨)造りによる一般的な建物です。屋上防水、外壁や内壁、天井について優先的に改修を行います。また、電気設備・機械設備において、経年による老朽化が進行している設備等についても、優先的に改修を行います。

(3) その他

敷地内にはサークル棟のほか、本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、寄宿舍(旧)、寄宿舍(新)があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

屋上部において、一部防水シートの剥がれが見られます。外壁においては、爆裂による鉄筋の露出が複数箇所が発生しており、経年による老朽化が進行している状況です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	公立大学法人福岡女子大学		建物名称	サークル棟			
所在地	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		棟番・枝番	210	-	6	
建築年度	平成3年度	建築面積	827.80㎡	現存率	84.7	想定耐用年数	26年
構造・階数	RC	2	延面積	1,332.89㎡		65年	
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	RC	26	100.0	40.00	
	小計					40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水押さえ コンクリート	26	73.3	14.66	
	外壁	20	タイル・塗装仕上げ	26	90.0	18.00	
	小計					32.66	
電気設備	受変電設備	10		26	60.0	6.00	
	小計					6.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		26	60.0	6.00	
	小計					6.00	
合計						84.66	

この結果、公立大学法人福岡女子大学のサークル棟の現存率は、「84.7」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C (一部 S)	100.0	耐震診断による Is 値 ⁶	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	シート防水	73.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化があ る ・少数の部材に少し の劣化がある
			経年 (新設もしくは改 修後)	経年 20 年以上
外壁	塗装	90.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
			漏水の発生・痕跡の有 無	・部分的にひび割れ や部材の劣化があ る ・少数の部材に少し の劣化がある
内壁	石こうボード EP	80.0	劣化	仕上げ材等の劣化が 部分的に発生してい るが機能上問題無し
天井	吸音板	100.0		
床	ビニールシート 張り	80.0		
建具	不明	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設 備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年 (新設後更新後)	—
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年 (新設後更新後)	経年 25 年以上
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年 (新設後更新後)	—

⁶ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
消火設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1992	28	新	—	—	—	—	65 年

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無い場合、公立大学法人福岡女子大学のサークル棟の目標耐用年数を原則どおり 65 年(残年数を 37 年)と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築28年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は37年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間の改修費用は、約7千万円となっています。

(2) 対策の平準化について

まずは、主要部仕上げの改修を優先して行います。その他の設備についても順次改修していきます。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により、計画の見直しを行います。

(単位：百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	38	0	38
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	19	0	19
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	8	0	8
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	65	0	65

※実際の予算や事業費等とは異なります。

公立大学法人福岡女子大学
(寄宿舍(旧))
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	26
施設所管課	私学振興・青少年 育成局政策課

令和3年2月

❀福岡県❀

公立大学法人福岡女子大学（寄宿舍(旧)）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対象施設	公立大学法人福岡女子大学		
所管	人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課		
整理番号	26	竣工年度	昭和55年度
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		
敷地面積(㎡)	60,491.70	建築面積(㎡)	20,308.23
主構造	RC、S	延床面積(㎡)	44,441.05
主要建築物	本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、学生会館、サークル棟、寄宿舎(旧)、寄宿舎(新)		

(2) 対象施設の活用状況

建物の名称	寄宿舎(旧)				
棟番・枝番	210	—	7	竣工年度	昭和55年度
建築面積(㎡)	565.74			延床面積(㎡)	2,226.42
構造・階数	RC造 地上4階 塔屋1階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
RF	19.08	階段室			
4F	552.24	寮室			
3F	552.24	寮室			
2F	552.24	寮室			
1F	550.62	ロビー、管理室、談話室			

公立大学法人福岡女子大学は、日本で最初の公立女子専門学校である福岡県立女子専門学校を起源とし、福岡県が設置していたものを平成18年4月に公立大学法人に移行しました。国際文理学部が設置されており、より良い社会づくりに貢献することのできる女性の育成を掲げています。

なお、公立大学法人福岡女子大学の寄宿舎(旧)は、昭和55年度に竣工し、学生の寄宿舎として利用されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築40年で目標使用耐用年数である65年に満たないことから、計画期間中の更新は計画していませんが、ひび割れや空調機器等の劣化など老朽化による不具合が目立つ状況となっています。

(2) 施設内での優先順位

施設としては鉄筋コンクリート造りによる一般的な建物です。内部改修を平成23年度に行っています。屋上防水について優先的に改修を行います。また、電気・機械設備等においても、経年による老朽化が進行している設備について優先的に改修を行います。

(3) その他

敷地内には、寄宿舍(旧)のほか、本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、サークル棟、寄宿舍(新)があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

屋上部で防水押さえに浮きや排水部で詰まりが見られる以外は大きな問題はありませんが、建築以来改修を行っておらず、予防保全における標準的な改修時期を超過している状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	公立大学法人福岡女子大学		建物名称	寄宿舍(旧)			
所在地	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		棟番・枝番	210	-	7	
建築年度	昭和55年度	建築面積	565.74㎡		築年数	38年	
構造・階数	RC	4	延面積	2,226.42㎡		現存率	84.0
		想定耐用年数	65年				
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	RC	38	100.0	40.00	
	小計					40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	シート防水	38	60.0	12.00	
	外壁	20	塗装、吹付けタイル	38	100.0	20.00	
	小計					32.00	
電気設備	受変電設備	10		38	60.0	6.00	
	小計					6.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		38	60.0	6.00	
	小計					6.00	
合計						84.00	

この結果、公立大学法人福岡女子大学の寄宿舍(旧)の現存率は、「84.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ⁷	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	シート防水	60.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			防水層の劣化	・部分的にひび割れ や部材の劣化がある ・少数の部材に少し の劣化がある
			経年（新設もしくは改 修後）	経年 30 年以上
外壁	塗装 吹付けタイル	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
			漏水の発生・痕跡の有 無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年 未満
内壁	ビニールクロス 吹付けタイル	100.0		
天井	吸音板	100.0	劣化	特に問題なし
床	ビニールシート 張り	100.0		
建具	スチール	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設 備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
受変電設備	あり	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上

⁷ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	動力設備方式 中央監視制御	20.0	経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
その他設備	インターホン TV 共同受信 防犯設備等 表示設備	20.0	経年（新設後更新後）	経年 20 年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	70.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 15 年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 25 年以上
消火設備	消火設備	60.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 30 年以上
エレベーター 設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
1980	40	旧	1.10	○	○	○	65年

※平成 22 年度に公立大学法人福岡女子大学が行った耐震診断結果による

経年による部分的な劣化は見られるものの、建物に大きな問題が無いため、公立大学法人福岡女子大学の寄宿舍(旧)の目標耐用年数を原則どおり 65 年(残年数を 25 年)と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築40年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は25年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用は、約2億4千万円となっています。

(2) 対策の平準化について

まずは、屋上防水の改修を優先して行います。その他の設備についても順次改修していきます。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、進捗状況等により、計画の見直しを行います。

(単位：百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	71	0	71
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	2	98	0	100
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	68	0	68
その他	外構	0	0	0	0
	計	2	237	0	239

※実際の予算や事業費等とは異なります。

公立大学法人福岡女子大学
(寄宿舍(新))
個別施設計画

施設類型	県民向け施設
整理番号	26
施設所管課	私学振興・青少年 育成局政策課

令和3年2月

❀福岡県❀

公立大学法人福岡女子大学（寄宿舍(新)）
個別施設計画

目次

第1章	概要	1
	(1) 対象施設の概要	
	(2) 対象施設の活用状況	
	(3) 計画期間	
	(4) 位置図等	
第2章	優先順位の考え方	3
	(1) 施設間の優先順位	
	(2) 施設内での優先順位	
	(3) その他	
第3章	個別施設の状態等	4
	(1) 個別施設の状態	
	(2) 施設の現存率	
	(3) 目標耐用年数	
第4章	対策の内容等	8
	(1) 改修・更新について	
	(2) 対策の平準化について	
	(3) 対策の内容等	

第1章 概要

(1) 対象施設の概要

対象施設	公立大学法人福岡女子大学		
所管	人づくり・県民生活部私学振興・青少年育成局政策課		
整理番号	26	竣工年度	昭和55年度
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		
敷地面積(㎡)	60,491.70	建築面積(㎡)	20,308.23
主構造	RC、S	延床面積(㎡)	44,441.05
主要建築物	本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、サークル棟、寄宿舎(旧)、寄宿舎(新)		

(2) 対象施設の活用状況

建物の名称	寄宿舎(新)				
棟番・枝番	210	—	8	竣工年度	平成22年度
建築面積(㎡)	2,452.44		延床面積(㎡)	9,039.02	
構造・階数	RC造 地上6階				
各階面積及び用途					
階別	階床面積(㎡)	主な用途(室名他)			
6F	1,117.82	寮室、談話スペース			
5F	1,621.12	寮室、談話スペース			
4F	1,794.52	寮室、談話スペース			
3F	1,794.52	寮室、談話スペース			
2F	1,794.52	寮室、談話スペース			
1F	916.52	エントランス、管理室、広間(和室)、広間(調理室)、倉庫			

公立大学法人福岡女子大学は、日本で最初の公立女子専門学校である福岡県立女子専門学校を起源とし、福岡県が設置していたものを平成18年4月に公立大学法人に移行しました。国際文理学部が設置されており、より良い社会づくりに貢献することのできる女性の育成を掲げています。

なお、公立大学法人福岡女子大学の寄宿舎(新)は、平成22年度に竣工し、学生の寄宿舎として利用されています。

(3) 計画期間

計画期間は令和8年度までとします。

(4) 位置図等

①位置図



②施設写真

全景



第2章 優先順位の考え方

(1) 施設間の優先順位

当該施設は、築9年と新しいため、計画期間中の更新は計画していません。

(2) 施設内での優先順位

築9年と新しく、この計画期間内において改修を行う予定はありません。

(3) その他

敷地内には、寄宿舍(新)のほか、本部棟、講義棟、研究棟・図書館、体育館・地域連携センター、大学会館、サークル棟、寄宿舍(旧)があります。

第3章 個別施設の状態等

(1) 個別施設の状態

全体的に大きな問題はなく、良好な状態です。

(2) 建物全体の現存率（平成30年度施設調査時のデータ）

現存率算定表

施設名称	公立大学法人福岡女子大学		建物名称	寄宿舎(新)			
所在地	福岡市東区香住ヶ丘1丁目1番1号		棟番・枝番	210	-	8	
建築年度	平成22年度	建築面積	2,452.44㎡	現存率	98.0	想定耐用年数	7年
構造・階数	RC	6	延面積	9,039.02㎡		65年	
区分	項目及び①評価比率(%)		仕様	経過年数	②各部位の現存率	①×②	
構造	躯体	40	RC	7	100.0	40.00	
	小計					40.00	
主要部仕上げ	屋根・防水	20	アスファルト防水押さえ コンクリート	7	100.0	20.00	
	外壁	20	タイル・塗装仕上げ	7	100.0	20.00	
	小計					40.00	
電気設備	受変電設備	10		7	90.0	9.00	
	小計					9.00	
機械設備	給排水・衛生・給湯設備	10		7	90.0	9.00	
	小計					9.00	
合計						98.00	

この結果、公立大学法人福岡女子大学の寄宿舎(新)の現存率は、「98.0」となります。

○建物各部位の現存率

調査部位	種類・形式等	各部位の現存率	判定項目	判定
躯体	R C	100.0	耐震診断による Is 値 ⁸	Is 値が 1.0 以上 もしくは新耐震基準
屋根	アスファルト防水(B-2)	100.0	防水層からの漏水 またはその痕跡	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			防水層の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			経年（新設もしくは改修後）	経年 10 年未満
外壁	塗装 タイル	100.0	外壁のはく落、浮き、 ひび割れ等の劣化	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
			漏水の発生・痕跡の有無	・劣化部分が少ない ・汚れがある程度 ・新築・改修 10 年未満
内壁	石こうボード EP タイル貼り モルタル EP	80.0	劣化	仕上げ材等に劣化が部分的に発生しているが機能上問題なし
天井	吸音板 モルタル塗り	100.0		
床	ビニールシート 張り モルタル塗り 木	80.0		
建具	アルミ	100.0	劣化	特に問題なし
			開閉作動・取付け状態	特に問題なし
電灯・電話設備	電灯設備 電気時計 拡声設備 避雷設備 電話設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上
受変電設備	あり	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年 5 年以上

⁸ Is 値：構造耐震指標のことであり、この指標が大きくなると建築物の耐震性能が高くなることを意味する。

調査部位	種類・形式等	各部位の 現存率	判定項目	判定
自家発電設備	—	—	定期点検等の結果	—
			経年（新設後更新後）	—
動力設備	—	—	経年（新設後更新後）	—
非常用照明・ 火災報知設備	非常用照明 火災報知設備	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
その他設備	インターホン TV共同受信 防犯設備等 表示設備	80.0	経年（新設後更新後）	経年5年以上
空気調和・換 気・排煙設備	空調方式 冷熱源機器 温熱源機器 排煙方式	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
給排水・衛 生・給湯設備	給水方式 水槽 給湯 ガス	90.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年5年以上
消火設備	消火設備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満
エレベーター 設備	エレベーター設 備	100.0	定期点検等の結果	特に問題なし
			経年（新設後更新後）	経年10年未満

(3) 目標耐用年数

建築年	経年	耐震性能		鉄筋 腐食度	平均 圧縮強度	中性化 深さ	目標 耐用年数
		耐震基準	補強後の I S 値				
2011	9	新	—	—	—	—	65 年

築 9 年と新しく、建物の状態も良好であるため、公立大学法人福岡女子大学の寄
宿舎(新)の目標耐用年数を原則どおり 65 年（残年数を 56 年）と設定します。

第4章 対策の内容等

(1) 改修・更新について

築9年で耐用年数を65年と設定しているため、残利用年数は56年となり、計画期間に施設の更新（建替え）を行う予定はありません。

計画期間内に改修費用が発生する予定はありません。

(2) 対策の平準化について

この計画期間内に改修を行う予定はありません。

(3) 対策の内容等

以上の結果、計画期間内の取組みは以下のとおりとなりますが、施設の状況等により、計画の見直しを行います。

(単位：百万円)

区分	項目	実施時期			計
		令和2年度	令和3～5年度	令和6～8年度	
主要部仕上げ	屋根・防水、内 壁、天井、建具	0	0	0	0
電気設備	電灯・電話設備、 自家発電設備、動 力設備、非常用照 明・火災報知設 備、その他の設備	0	0	0	0
機械設備	給排水・給湯・ガ ス設備、空気調 和・排煙設備、消 火設備、エレベ ーター	0	0	0	0
その他	外構	0	0	0	0
	計	0	0	0	0

※実際の予算や事業費等とは異なります。